

# 応用測量論文集投稿規程

改正 平成29年2月 3日

改正 平成29年9月27日

改正 令和元年10月 9日

1. **投稿の原則** 本誌に掲載される論文・報告（以下、「論文等」とする）は、未発表のもので、応用測量分野の領域（具体例は以下に掲載）の研究成果・技術成果等であり、かつ、応用測量の発展、実利用の推進に寄与するものを対象とする。  
  
領域の例：GNSS測量、慣性測量、レーザ測量、最新測量技術、移動体計測、工事測量、環境測量、構造物計測、遺跡計測、地形情報処理、測量機器開発、計測システム、複合計測技術、地理空間情報の利活用、測量教育、測量史、実務利用事例、関連する法令・制度、新規事業ビジネスモデル、その他
2. **論文等の区分** 応用測量論文集の論文等は、論文、報告の2種類とする。  
論文： 広く応用測量分野のテーマに関する研究成果で新規性、信頼性、有用性のあるもの。  
報告： 広く応用測量分野における実務、計測データ、システム開発、利活用等の技術的な事例報告、新たな測量技術の紹介、あるいは測量教育、測量分野の現状等に関する事例報告等で、有用性、信頼性のあるもの。
3. **執筆者の条件** 執筆者のうち1名以上は日本測量協会の会員であることとする。
4. **論文等の査読** 投稿された論文等は編集委員会で選定した3名以上の査読委員によって査読を行い、採否を判定する。評価の結果によって内容・分量の変更、削除、訂正などを求めることがある。
5. **論文等の採否** 編集委員会は査読結果に基づいて、掲載の可否を決定する。
6. **論文等の作成** パソコンを利用し、A4用紙を使用し、「原稿様式」に従って作成する。必ず横書きで48字×42行で作成する。
7. **論文等の枚数** 図・表・写真を含め8頁を標準とし、最大は12頁とする（査読後の最終原稿）。
8. **論文等の提出** 論文等は執筆要領に従い、PDFファイル（10MB以内）に格納し、メールに添付して提出することを原則とする。なお、10MBを越える場合は事務局に連絡することとする。

9. 論文等の返却 論文等は著者に返却しない。
10. 別刷 別刷は取り扱わない。
11. 論文等の公開 一定期間経過後は、インターネット上で公開する場合もある。
12. 著作権 論文集の編集著作権および出版権は、公益社団法人日本測量協会が保有し、論文等の著作権は著者が保有する。ただし、当該著作権の行使は、本協会に委任されたものとする。
13. その他 論文等査読料及び論文集登載料は無料とする。また、発表に伴う旅費等は執筆者の負担とする。

附 則（平成29年2月3日一部改正）  
本規程は、平成29年2月3日から施行する。

附 則（平成29年9月27日一部改正）  
本規程は、平成29年9月27日から施行する。

附 則（令和元年10月9日一部改正）  
本規程は、令和元年10月9日から施行する。

# 応用測量論文集執筆要領

## 1. 表題

原稿内容のもっとも適切な要約であるようにする。

## 2. 原稿用紙と文字

- ① A4 の用紙を縦長で用い、パソコンによって完成原稿を作成する。
- ② 論文第 1 ページでは、(1) 論文題目の和文および英文、(2) 著者氏名の和文およびローマ字、(3) 著者所属（最終行）を添付の「原稿様式」に従い作成する。
- ③ 論文の最終ページは、参考文献で終わるものとする。
- ④ 本文は全幅 48 文字分を 1 段で作成する（「原稿様式」参照）。
- ⑤ 投稿論文には行番号を表示する（「原稿様式」参照）。なお、最終時の原稿には表示しない。
- ⑥ 日本語の文字、句読点、括弧等はそれぞれ全角とし、数字および欧文等は半角とすることを標準とする。
- ⑦ 句読点は「。」「，」「，」とする。
- ⑧ 原則として数字はアラビア数字とする。
- ⑨ 外国の人名・地名・外来語はカタカナ書きとし、初出の場合のみ原語を付けることが望ましい。
- ⑩ アルファベットの頭字語のみを用いた用語は初出の場合、用語の後に括弧付きで原語を示す。

## 3. 本文

### 3.1 見出し

見出しのレベルは章、節、項の 3 段階までとする（「原稿様式」参照）。

### 3.2 文章

- ① 文章は口語体とし、できるだけ常用漢字・新かなづかいを用いる。
- ② 文章の書き出しおよび改行後は必ず 1 字分あけて書き始める。
- ③ 名詞の列記の場合は（，）で区切り、同格の名詞を切るときは、1 字分とって（・）を間に入れることを原則とする。

### 3.3 図・表・写真

引用する文章と同じ頁に置き、それぞれの頁の上部または下部に集めてレイアウトする。詳細は 7. および「原稿様式」を参照。

### 3.4 数式

数式は 2 行分以上とり、記号・文字の種類・大小・添字・数字を明瞭にする（「原稿様式」参照）。

## 4. 注釈

注釈が必要な場合は、本文の当該箇所右肩に一連番号を片括弧付きで付し、各ページの最下段に注釈の内容をまとめて記述する。

## 5. 参考文献

### 5.1 本文中の文献引用

本文中で文献を引用する場合は、引用文献番号を上付文字片括弧付で明示する。引用順方式とする。

## 5.2 文献表

文献名は論文末に参考文献として、引用順に一括して記載する。

- ① 文献は原典どおりの記載を原則とする。
- ② 参考文献の書き方は、著者名、論文名、雑誌名（書名）、巻号、頁、発行所、発行年の順に記載する。単行本の場合は、著者名、書名、頁、発行所、発行年とする。
- ③ 共著者の場合は、すべての著者を列記し、書き方は②に従うものとする。
- ④ 雑誌名を略記表示する場合は、正式な略記法にのっとり、過度な略記は避ける。略記が一般化されていない場合、他誌と混合混同しやすい誌名などは省略せずに記載する。

〔記入例〕

1)池田隆博, 佐田達典 : GPS と GLONASS を併用した RTK 測位の精度に関する研究, 応用測量論文集, Vol.20, pp.5-14, 日本測量協会, 2009.

2)近津博文, 熊谷樹一郎, 佐田達典, 鹿田正明, 淵本正隆 : 空間情報工学概論, p.95, 日本測量協会, 2005.

3)Leica Geosystems : System 1200 Newsletter – NO.36 GLONASS,  
[http://www.leica-geosystems.com/downloads123/zz/general/general/newsletters/System1200\\_36\\_GLONASS\\_en.pdf](http://www.leica-geosystems.com/downloads123/zz/general/general/newsletters/System1200_36_GLONASS_en.pdf), (入手 2010)

## 6. 頁の表示

原稿には、表題から参考文献まで一連のページを中央下に付す（「原稿様式」参照）。

## 7. 図・表・写真の表示

- ① 図・表に記入する文字・線等は、小さくなりすぎないように十分に考慮し作成する。
- ② 図・表・写真の色彩については十分に考慮する。
- ③ 図・表・写真の番号は、それぞれに通し番号とし、図Ⅰー1, 表Ⅱー2 のような表現は用いない。
- ④ 欧文の表題は、書き出しの文字だけ大文字とし、以下は小文字を原則とする。

### 7.1 地図の表示

- ① 地図には縮尺、方位を付けるものとする。

### 7.2 表について

- ① 表の形式はできるだけ単純にし、表中の小数点は縦にそろえる。
- ② 流れ図のような不規則な斜線のあるものは、たとえ文字が大部分でも図として原稿を作成する。

## 8. 論文のフォーマット

### 8.1 Windows 使用の場合

- ① 和文の場合の基本フォントは、MS明朝体・MSゴシック体とする。
- ② 英文の場合の基本フォントは、Times New Roman 体・Arial 体とする。

### 8.2 Macintosh 使用の場合

- ① 和文の場合の基本フォントは、平成明朝体・ヒラギノ明朝体・平成ゴシック体・ヒラギノゴシック体とする。
- ② 英文の場合の基本フォントは、Times 体・Arial 体とする。

## 9. その他

著作権については十分考慮し、仕上げには細心の注意を払うこと。